**至高の女神であるホーリー・マザー（ジャガッダートリ）**

2013年1月20日

ホーリー・マザー　シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕160周年記念祝賀会

スワーミー・メダサーナンダによる講話

於・逗子協会

ホーリー・マザーについての講話は大変難しいものです。もちろん、シュリー・ラーマクリシュナやスワーミー・ヴィヴェーカーナンダについて講話を行うのも簡単ではありません。しかし、ホーリー・マザーの生涯は非常に控えめで静かで、劇的な出来事がほとんどなかったため、マザーをテーマにお話しするのは特に難しいのです。マザーの最も素晴らしいと思われる点は、その美しく愛情深い母性でしょう。とは言え、毎年同じことをお話しすることはできません。私が毎年同じ原稿を使っているのではないかと皆さんに思われてはいけませんから。

そこで、マザーの他の面について何かお話ししようと思います。ただし、今日は英語と日本語の両方でお話をしないといけませんので少し大変です。何か言い忘れてしまうかもしれませんので、その場合はどうぞご容赦ください。

神道にもヒンドゥー教にも神様や女神様がたくさんいますが、この二つの宗教はどう違うのでしょうか。ヒンドゥー教では実はたった一人の神様、ブラフマンがいるだけです。それ以外の神様や女神様はすべてこのブラフマンと呼ばれる神様の様々な現れにすぎないのです。ブラフマンは英語では至高の実在（Supreme Reality）と言われます。ヒンドゥー教にも自然の神様、風の神様、火の神様、太陽の神様、月の神様など非常に多くの神様がいますが、すべては同じ至高の実在が異なる現れとなっているのです。この点が神道と異なるところです。神道では神々はすべて別個で独自の存在です。

ヒンドゥー教の面白い点として、同じ神様に二つの面があるというところもあげられます。例えば、維持の神様ヴィシュヌは、一つにはこの宇宙を維持し、もう一つの面としてはブラフマンであり形も性質もありません。また、カーリーは母神であるという面と、形も性質もないブラフマンであるという面を持ち合わせています。そしてヒンドゥー教では、神様は人間の姿を取って、人々が霊性の道を歩むのを導き人々に平和と幸福の道を示すと信じられています。

ヒンドゥー教における神の化身の場合、一つの形にブラフマンと母神の両面を見ることがあります。例えばシュリー・チャイタニヤの場合がそうです。しかし、シュリー・クリシュナやシュリー・ラーマクリシュナの場合では、母神とブラフマンが別々の現れとなっています。シュリー・クリシュナの場合、クリシュナがブラフマンの化身でラーダーが母神またはプラクリティです。シュリー・ラーマクリシュナの場合、ラーマクリシュナがブラフマンの化身で、ホーリー・マザーがプラクリティの化身です。

ではこのブラフマンとプラクリティとは何なのでしょうか。ヒンドゥー教では、ブラフマンには形も性質もありませんが、ブラフマンの力は投影されると言われています。この力こそがこの宇宙を創造し破壊するのです。そしてこの力はプラクリティまたはシャクティ、すなわち根源エネルギーと呼ばれます。神の力であるこのシャクティまたはプラクリティには、ヴィディヤとアヴィディヤという二つの面があります。アヴィディヤ・シャクティは人間を束縛します。プライドやエゴ、欲などいわゆるマーヤーで人間を束縛するのです。一方、ヴィディヤ・シャクティは束縛を断ち切り解放します。

興味深いことに、プラクリティすなわち母神がホーリー・マザーやラーダーのように人間の姿を取って現れると、アヴィディヤの痕跡が全くない純粋なヴィディヤとなります。この場合、この神の化身は束縛するためでなく解放するためにやって来るのです。ですから、ホーリー・マザーは私たちをマーヤーで束縛するためでなくマーヤーから解放するために生まれたのです。性質としては二つの面があるのですが、人間として現れると一つの面しかないのです。外見上は質素で純真で、田舎の村のごく普通の娘に見えますが、内面的には極めて非凡で、特別で、驚く程素晴らしいのです。

一方、シュリー・ラーマクリシュナの卓越性は際立っており、誰の目にも明らかです。ラーマクリシュナはしばしばサマーディに入りました。食事をしている時に突然動かなくなって笑みをたたえながら至福のサマーディに入りました。音楽を聴いていると、高まってサマーディに入りました。神様のことを話している時にラーマクリシュナが恍惚状態になってサマーディの高みへとのぼり、体全体から光を放つのを多くの人が目にして驚嘆したものでした。私たちの大半にとってサマーディはめったに経験することのない状態ですが、ラーマクリシュナにとっては当たり前のものでした。ラーマクリシュナがサマーディの状態にある時、有名な医者が脈を取ろうとしましたが、脈がなく生命の兆候が他にもなかったため困惑したことがありました。このように、ラーマクリシュナが特別な人間であることは誰の目にも明らかでした。外見から、行動から、話から、一目で見て取れたのです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダもまた強烈なカリスマ性がありました。スワーミージの写真を見ただけで、他の人とは非常に違うことが分かります。しかし、ホーリー・マザーにはこのような点はありませんでした。

マザーの御写真から見て取れるのは質素な気品です。ホーリー・マザーの真の性質を見抜いてそれを周囲に伝えたのはシュリー・ラーマクリシュナだけでした。ラーマクリシュナは、マザーが母神の化身であると言いました。マザーはラーマクリシュナの礼拝を受け入れ、神の化身であると受け入れることもできました。マザーはありきたりの女性だったのでしょうか。ラーマクリシュナはよく「彼女は私のシャクティだ」と言っていました。しかしごくまれにしかマザーは真の姿を現しませんでした。

ある時、若い僧侶がコルカタのカーリガートにあるカーリー寺院に行きたいと思い、スワーミー・プレマーナンダジに許可を願い出ました。プレマーナンダジは、生きているカーリー母神にまず会ってプラナームをしてからカーリガートに行くようにと勧めました。僧侶はその言葉に従い、ホーリー・マザーにプラナームをしてプレマーナンダジに言われたことを話しました。するとマザーは静かに答えました。「そうです、バブラーム（プレマーナンダジ）が言ったことは正しいのですよ」

コルコタのホーリー・マザー・ハウスで、チャンドラ・バブーという名の信者が働いていました。彼はマザーに深い尊敬の念を抱いており、マザーは大きな愛で彼に応えていました。ある時、マザーが生まれ故郷のジャイランバティに帰郷する際、チャンドラ・バブーがお供をしていて、二人はある村の休憩所で休憩しました。バブーはこの機会を利用して特別なお願いをしました。「マザー、私はマザーが神聖な存在である、女神様であると聞いています。どうぞその面を私にお見せください」ご存知の通り、普通、信者は神様のビジョンを見るという恵みをいただくまでに霊的修行をたくさん積まないといけません。しかし、チャンドラ・バブーはマザーに神様の姿形を彼の前で現してほしいとお願いしたのです。これは明らかに変わったお願いでした。

最初マザーは、そのような形は取れないし自分は普通の女性であると言って受け付けませんでした。しかし、チャンドラ・バブーは断られてもあきらめずに、願いを聞いてほしいと何度も頼みました。ちょうど子供が母親に何かをしつこくねだるように、彼は頼み続けました。遂にマザーは折れて、自分が生きている間は誰にもこのことを言わないと約束するなら姿を見せてあげましょうと言いました。そして、この宇宙を維持する至高の女神ジャガッダートリのビジョンを彼に見せたのです。このビジョンは光でいっぱいとなり（ジョーティ）、彼は辛うじてそれに耐えましたがほとんど意識を失いました。このように、ホーリー・マザーは自分の神の性質を常に分かっていましたが、それを人には見せず普通の女性として振る舞っていたのです。

ホーリー・マザーは一部の信者に対して「生まれてくるのはこれが最後ですよ」と言うこともよくありました。これほどの確信を持って誰かの未来を見通すことができる人などいるでしょうか。マザーには、私たちの過去、現在、未来が見えたのです。だからこのようなことが言えたのです。さらに、マザーはその霊的な力によって束縛をその場で断ち切り、そのように言うことができたのです。また、マザーは次のように約束をしたものです。「息子よ、あなたをいつも守っている母がいることを忘れてはいけません。信じなさい。私が、あなたをいつも守っている母なのですよ」

私も自らの経験から、マザーの約束は本当であると言うことができます。ですから、この生誕祭の日にマザーの言葉を皆さんも信じてください。私たちには朝から晩まで際限なく問題や危険が降りかかるわけですから、これは素晴らしい約束です。このような確実な約束なしに生きることは、大変なことです。私たちの信じる力はとても浅薄なため私たちには信じることができないのです。マザーが守っていてくれると信じることができれば、私たちに大きなプラスとなります。ホーリー・マザーの御写真を持ち歩くのもよいでしょう。これはとても役に立つことがあり、実際にやっている人も多くいます。困ったことがあったらいつでもこの写真を見て、マザーがそばにいてくださるのだと感じて心から祈りましょう。そうすれば、いつか必ず救いの手がさしのべられます。